

キリスト教教育委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう

このテキストの内容それ自体は後代に創作されたものだと考えられますが、ルカ福音書の著者のクリスマス理解が如実に示されています。それは、イエスがこの世界に生まれたのは、この世界の傲慢な者、権力を持つ者、富める者をその座から引きずり下ろし、この世界の低くされた者や弱い者、貧困に喘ぐ者を引き上げるためだというメッセージです。しかし、それは単にルカ福音書の著者の神学や思想であるというに留まらず、古代ローマ帝国の戦争と圧制によって数多くの難民が生じ、まさにその日の食物に困窮する人たちが数多くいたパレスティナの実情を目の当たりにしていたイエスの経験や想いが反映されているとも考えられるのです。

間もなくアドヴェント（待降節）に入り、クリスマスに備える時期になります。アドヴェントのこの時期、キリスト教主義大学で学ぶみなさんが、そしてそこで働く教職員が、クリスマスの本当の意味を顧み、戦争や貧困によって、またいじめや孤独によって、クリスマスを祝うことすらままならない人たちで満ちたこの世界のために、イエスが誕生したという「マリア讃歌の精神」に立ち帰り、クリスマスに備えていきたいと思えます。

【クリスマスの案内】

《酪農学園大学クリスマス：コンサート》今年の大学クリスマス・コンサートは12月19日です。指揮者に北海道農林管弦楽団の牧野時夫さんをお迎えし、大学の吹奏楽団、室内楽団、合唱団、聖歌隊によるコンサート形式の礼拝を行います。聖歌隊では、コンサートで一緒にハレルヤ・コーラスを歌ってくれるメンバーを募集しています。毎週礼拝後にオルガン前で練習をしますので、希望者はオルガン前での練習にご参加ください。

《クリスマス・リースの作成》アドヴェントに向けて、リースの作成を行います（割と簡単です）。手伝ってくれる学生と作業日程（2日間程度）を決めますので、本日の礼拝後に、講壇の前にお集まりください。

《ヒンメリの装飾》循環農学類の宮崎ゼミと義平ゼミが共同で「ヒンメリ」を作成していただきます。アドヴェントに講堂に飾りますので、楽しみにしててください。ヒンメリについては本日の礼拝で紹介します。

【次回の大学礼拝】2017年11月21日（火）10時40分

次回の大学礼拝は、とわの森三愛高校教諭の石橋紀彦先生に奨励をご担当いただきます。附属高校出身者には懐かし時間になることと思えます。

【前回の大学礼拝】2017年11月7日

学生326名 教職員ほか8名 合計334名

【大学礼拝週報】 2017年度 第23号（後学期第8号）

2017年11月14日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 小林昭博（キリスト教学教員）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「イエスはわが喜び」（バイエル作曲）

讃美歌 讃美歌 94番（ひさしくまちにし）

聖書 ルカによる福音書1章46-55節

祈り

さんび

酪農学園大学聖歌隊

奨励

「マリア讃歌の精神——アドヴェントに向けて」 小林昭博
（循環農学類キリスト教応用倫理学研究室准教授）

報告

讃美歌 讃美歌 21 175番（わが心は）

後 奏 「神、家をかえりみたまわずば」（ツイップ作曲）

【本日の聖書】ルカによる福音書1章46-55節

46そこで、マリアは言った。47「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。48身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人でもわたしを幸いな者と言うでしょう、49力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、50その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。51主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、52権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、53飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。54その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、55わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに」。

【奨励】「マリア讃歌の精神——アドヴェントに向けて」

本日のテキストは「マリア讃歌」と呼ばれる聖書箇所ですが、ラテン語訳聖書では、Magnificat（わたしは崇める）という言葉で始まっていることから、そのままマグニフィカト（マニフィカト）と呼ばれてもいます。